1. はじめに：レジストロにおける日系移民住宅研究の背景と目的

1） 研究の背景と目的

本研究は、2016～2019 年度の研究課題「ブラジル日本人入植地の歴史民俗学的研究」の日系移民住宅調査班（以下、建築班と略称）として実施した調査研究である[1]。

ブラジル連邦共和国（以下、ブラジルと称する）では、1908（明治 41）年に日本からの集団的移民受入を開始した。それ以降、これまで約十三万人が移住し、2018 年で入植 110 年となる。日本における集団移民政策の最初期には、移住を目指して企業組合「東京シンヂケート」[2]が設立され、その活動は 1913（大正 2）年設立の伯剌西爾拓殖会社に引継がれて、具体的な移住が加速した。

レジストロはこうした戦前期に開拓された日系移民の入植地の一つである（図 1-1,2）。この地では、1917 年以降に多くの日系人が移住し、土地に合う農作物を試行錯誤するなかで米、さとうきび、コーヒー、イ草の栽培や養蚕を行い、昭和期以降には、茶の生産にも力を入れるようになった。

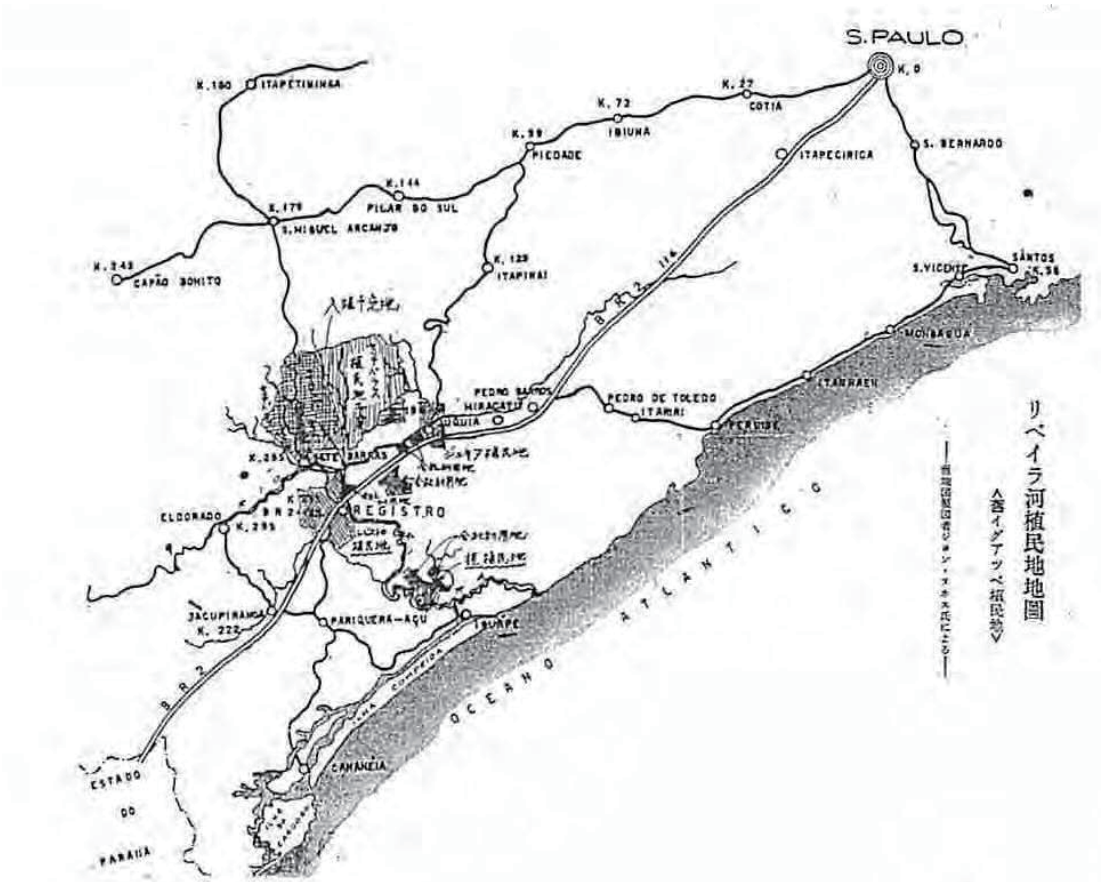

図 1-1　リベイラ河植民地地図（イグアッペ植民地）（出典『レジストロの六十年』）

---

[1] 2018 年 12 月 15 日神奈川大学において開催された公開研究会「ブラジル日本人入植地の歴史と民俗」でも報告している。

[2] 国立国会図書館電子展示「ブラジル移民の 100 年」2009 年

図 1-2 リベイラ河沿岸に位置するレジストロ REGISTRO とセッテバラス SETE BARRAS

現在でも多くの日系人が生活を営んでおり、相当数の移民が定住化したことに伴い、多くの移民住宅が建設された。戦前に建設された移民住宅のうち、現存するものの数は減少しつつあるが、5 件の住宅については歴史的価値が認められブラジルの文化財となっている[3]。

ブラジルの日系移民住宅に関する既往研究は次節で詳述するが、主要なものとしては上田篤らによるブラジル南部地域の移民の住文化に関する研究や、熊谷広子氏らによる、住戸形式や構造形式などを分析対象とした住空間の研究が知られる[4]。また近年では、博物館明治村に移築保存された旧久保田安雄家住宅（1919（大正 8）年）についての報告[5]や、肱岡明美氏によるリベイラ地域の民家に関する歴史的研究（サンパウロ大学・博士論文）[6]がある。レジストロの日系移民住宅に関するこれらの研究成果については、本研究でも大いに参考にした。ただし、日系移民住宅の傾向やその価値、所有者らの史的経緯は先行研究に扱われているものの、実測調査をもとにした詳細な調査研究はこれまで行われてこなかった。

図 1-3　久保田安雄家住宅　1919　（大正 8）年竣工

レジストロから明治村へ移築・復原され、現在も公開されている。

そこで本研究は、こうしたレジストロの日系移民住宅の特徴を明らかにするため、特に文化財指定されているもの着目して現地調査を行った[7]。特に、①基礎資料としての図面作成、②住宅の類型化・特徴の整理と共に、③日本住宅・現地住宅・他の移民住宅などとの比較化、

---

[3] 「ヴァーレ・ド・リベイラの文化風景」として、リベイラ沿岸では 14 件の建物が連邦歴史遺産（IPHAN：国立歴史美術遺産院）に認定された（参考：サンケイ新聞 2010 年 8 月 25 日）。

[4] 上田篤ほか「ブラジル南部外国人移住地域における住文化変容に関する比較調査」昭和 55 年度科学研究費補助金、熊谷広子ほか「レジストロに見られる移住地形成期の住宅の型 ブラジルにおける日系移民の住空間の変遷に関する研究」『日本建築学会東北支部研究報告集　計画系』pp.201-204, 2005 等。

[5] 新村美沙紀「愛知県 登録有形文化財明治村ブラジル移民住宅　－日系移民住宅の材料と技法」『文建協通信 第 126 号』pp.139-142、2016 年 10 月

[6] Akemi Hijioka “MINKA-Casa dos Imigrantes Japoneses no Vale do Ribeira”Instituto de Arquitetura e Urbanismo, USP, 2016（サンパウロ大学・学位論文）なお、肱岡氏には現地調査における多大なご協力とご助言をいただいた。

[7] 内田青蔵「戦前期のブラジル移民の建築遺構」『比較民俗研究』第 28 号、2013 年 11 月。なお、本稿に含まれる沖山剛造家住宅、沖山スズ家住宅、天谷捨吉家住宅については、2018 年度日本建築学会北海道支部研究発表会、2018 年度日本建築学会大会にて研究発表を行った。本稿は、こうした一連の成果を取り纏め、調査活動のまとめとして報告するものである。

④移民住宅の特徴の解明といった観点を視野に入れ、段階的調査・整理を行い、最終的にはブラジルに残る日系移民住宅を建築史的観点から評価することを目指すものである。

2）研究チームと調査方法

建築班は、内田青蔵（神奈川大学・教授）を代表として、田中和幸（近畿大学工業高等専門学校・准教授）、渡邉裕子（文化学園大学・准教授）、須崎文代（神奈川大学・特別助教）、宮崎稜也（内田・須崎研究室学生）を構成メンバーとしている。同メンバーにより 2016 年度より 2018 年度にかけて、全 3 回の現地調査を実施し、現存する日系移民住宅のうち 6 件の建築遺構の実測および聞き取り調査を行った。その概要は次に示す通りである。

【2015～2019 年度　建築班　現地調査概要】[8)]

2016/2/21～29　第１回現地実測調査（内田、田中、渡邉、須崎）
　　①　沖山スズ家住宅
　　②　沖山剛造家住宅
　　③　天谷捨吉家住宅
2017/3/14　博物館明治村での遺構調査
2017/6/28　博物館明治村 石川氏によるブラジル日系移民住宅久保田家住宅の解体復元時の専門知見に関する勉強会
2018/3/13　常民研公開研究会「ブラジルにおける日本人移民の住まいと生活」
2018/6/23　建築学会北海道支部研究発表会における研究発表（２件）
2018/9/1　建築学会大会（東北）研究発表会における研究発表（１件）
2018/8/22～9/1　第２回現地実測調査（田中、宮崎）
　　④　深澤家住宅
　　⑤　六川家住宅
2019/8/14～8/15　第３回現地実測調査（内田、田中、須崎）
　　⑥　天谷家住宅

調査対象となった移民住宅は、国立歴史美術遺産院 IPHAN[9)]の文化遺産「ヴァ―レ・ド・リベイラの文化風景」（全 14 件）として 2010 年に登録されたもののうち、「Edificações Residenciais（和訳：住宅建築）」に該当する住宅である。但し、2016 年度に調査を行った天谷捨吉家住宅は登録されている同名の住宅とは別個のものである。

---

8) 2013 年にも視察調査を行っているが、本報告では 2016 年度の調査を第 1 回とした。
9) Instituto do Patrimônio Histórico e Artístico Nacional の略

【「ヴァ―レ・ド・リベイラの文化風景」（14 件）レジストロの日系移民住宅】
（2010 年 IPHAN に“Edificações Residenciais（住宅建築）”として登録された）

7. Residência Fukasawa
8. Residência Gozo Okiyama
9. Residência Sra. Susu Okiyama
10. Residência Família Hokugawa
11. Residência Família Amaya

（通し番号は IPHAN の登録内容による。）

図 1-4　レジストロ市における本研究の調査対象住宅の位置

（地図「MAPPA DA COLONIA REGISTRO」海外興業会社）

赤○：第１回調査対象、青○：第２回調査対象、緑○：第３回調査対象

黄色○：博物館明治村へ移築保存された久保田家住宅

既往研究

最多の日系人が生活するブラジルのなかでも、レジストロは日系人のコミュニティーが大切にされており、日本よりも日本らしい文化や習慣が根付き多くの研究者が注目してきた場所である。

半田知雄氏はブラジル全般の植民事情について触れるなかで、レジストロでの入植当初から 1960 年代までの流れを詳しく記しており、この本はその後の研究者のバイブル的存在となっている [1)]。日系移民住宅に対象を絞ると、上田篤氏を代表とする研究グループの幹事を務めていた盛岡通氏は植民地の配置パターンについて、入植の初期から 1960 年代までの変遷を調査し他の植民地との比較を行っている [2)]。また熊谷広子氏らは『伯剌西爾イグアッペ植民地廿週年記念寫眞帖』（以下、『イグアッペ寫眞帖』という）[3)]を用いて、住宅の階数、屋根、壁、玄関について分析し、2 階建て住居の多さを特筆している [4)]。このような特徴を持つ日系移民木造住宅は、近代建築が移築保存されている日本の明治村でも目にすることができる。久保田家住宅はレジストロから移築されたもので我が国の登録有形文化財として大切に維持管理がなされている。1975 年に移築されてから 40 年以上が経過し部材の劣化が進んでいたことから耐震性向上を踏まえ修復が 2016 年から行われ、その内容について新村美沙紀氏が報告を行っている [5)]。

もちろん、ブラジルにおいてもレジストロ植民地の日系移民住宅に着目した研究が行われており、ウンベルトテツヤヤマキ氏は入植者の住宅について、当時の規定を紹介しながら特徴を記している [6)]。また、ロジェリオ・ベッサ・ゴンサルベス氏は日系移民住宅が日本の伝統木造建築で用いられている工法が採用されていることを特筆しており [7)]、この成果が日系移民に関する遺産が文化財となる上で IPHAN が重視していることは見逃せない。さらにラリッサリーナガセ氏は、劣化の著しい六川家住宅を修復し活用させる提案を示した論考を発表している [8)]。

このように、レジストロにおける日系移民木造住宅については多角的な観点から研究がなされていることが理解できよう。

---

1) 半田知雄『移民の生活の歴史：ブラジル日系人の歩んだ道』サンパウロ人文科学研究所,1970
2) 盛岡通「ブラジルにおける日系移民のまちづくりーサンパウロ州レジストロでの事例研究ー」日本土木史研究発表会論文集 3(0), 111-118, 1983. 上田篤『ブラジル南部外国人移住地域における住文化変容に関する比較調査』昭和 55 年度文部省科学研究費補助金ー海外学術調査報告書,1982.3
3) 安中末次郎社『伯剌西爾イグアッペ植民地廿週年記念寫眞帖』海外興業株式会,1934
4) 熊谷広子「レジストロに見られる移住地形成期の住宅の型：ブラジルにおける日系移民の住空間の変遷に関する研究」『日本建築学会東北支部研究報告集 計画系』(68), pp.201-204,2005.6.10
5) 新村美沙紀「愛知県 登録有形文化財明治村ブラジル移民住宅 -日系移民住宅の材料と技法-」『文建協通信』126 号, 文化財建造物保存技術協会, pp.139-142,2016
6) ウンベルト テツヤ ヤマキ「ブラジルにおける移民都市の形成プロセスに関する考察　日系移住地を事例として」日本都市計画学会学術研究発表会論文集, 18 巻,pp.13-18,1983
7) Rogério Bessa Gonçalves “O sincretismo de culturas sob a ótica da arquitetura vernácula do imigrante japonês na cidade de Registro, São Paulo” Anais do Museu Paulista. São Paulo.N. Sér. v.16. n.1, pp.11-46, Jan.- Jun. 2008.
8) Larissa Lie Nagase “PRESERVAÇÃO DA ARQUITETURA DA IMIGRAÇÃO JAPONESA NO VALE DO RIBEIRA: INVENTÁRIO, CONSERVAÇÃO E RESTAURO” XII Jornada de Iniciação Científica e VI Mostra de Iniciação Tecnológica, Universidade Presbiteriana Mackenzie, 27 A 29 DE SETEMBRO DE 2016.